

リハビリ情報提供書・リハサマリー 記入テンプレート

次の支援者が、介助・移動・リスク管理を再現できる粒度で記載してください。「見守り」「軽介助」だけで終わらず、使用物品・距離・危険場面・介助が必要になる条件まで具体化します。所属施設・地域の正式様式がある場合は、そちらを優先してください。

1. 基本情報

氏名		年齢		性別	
入院日		退院・転院日		退院先	
主病名		併存疾患			
宛先・受取先					

2. 主な経過・リハビリテーションの目的

--

3. 現在の移動・ADL

項目	方法・介助量	条件・具体的な注意点
寝返り		
起き上がり		
立ち上がり		
移乗		
屋内歩行		
屋外歩行		
車椅子		
階段		
排泄		
更衣		
整容		
食事		
入浴		

リハビリ情報提供書・リハサマリー 記入テンプレート（続き）

4. 補助具・装具・環境設定

5. 注意点・リスク／中止・相談の目安

6. 退院後の支援に関係する心身機能・評価

7. 残存課題・継続してほしい支援

8. 本人・家族の意向／指導内容・習得状況

9. 退院後サービス・連携事項／フォロー予定

10. 作成・更新情報

作成者（職種・氏名）		作成日	
最終更新者		最終更新日	

※本テンプレートは情報整理を支援するための補助様式です。法令・診療報酬・介護報酬上の正式様式や、所属施設・地域で指定された様式がある場合は、それらを優先してください。

記載例・提出前チェック

情報提供書は、評価点や介助量を並べるだけでなく「どの条件ならできるか」「どこで危険になるか」を書くと、次の支援者が実際の介助方法を再現しやすくなります。以下は文章を具体化するための記載例です。

1. 曖昧な表現を具体化する記載例

項目	曖昧な表現	具体化した記載例
歩行	歩行見守り	T字杖で屋内50mは見守り。方向転換時にふらつきがあり、混雑時は近接見守りが必要。
移乗	移乗軽介助	ベッド→車椅子は手すり使用で見守り。疲労時は立ち上がりで骨盤前方誘導が必要。
排泄	トイレ一部介助	日中はトイレまで歩行見守り。下衣操作は立位保持が不安定なため、右側から軽介助。
入浴	入浴介助	浴槽またぎは困難。シャワーチェア使用で洗体は自立、足部のみ介助。
転倒	転倒注意	夜間トイレ時にふらつきが増える。杖使用と移動時の見守りが必要。
家族指導	家族指導済み	妻へ車椅子移乗を実技指導。見守り下で一連の介助を実施できることを確認。
装具	AFO使用	屋内歩行時は右AFOを使用。装着前に踵の収まりとベルトのねじれを確認。
呼吸	息切れに注意	歩行で息切れが増強する場合は休憩し、回復しない・胸痛やめまいを伴う場合は医療者へ相談。

2. 宛先によって強調する情報

宛先	強調する情報	書き方のポイント
転院先・リハ職	経過、評価、現在の介助条件、補助具・装具、残存課題	評価値は必要なものに絞り、変化と現在地が分かるように書く。
施設	ADL、実際の介助方法、危険場面、環境設定	専門用語より、現場で再現できる介助手順を優先する。
ケアマネジャー	生活上の課題、必要サービス、福祉用具、連携先	サービス調整に必要な情報が短時間で拾えるように整理する。
本人・家族	介助方法、生活上の注意、できること・支援が必要なこと	専門用語を避け、家庭で実行できる表現に置き換える。

3. 提出前チェック

- ☐ 介助量・移動方法は、退院・転院時点の最新情報になっている
- ☐ 「見守り」「軽介助」だけで終わらず、必要になる条件を書いている
- ☐ 実際に使用する杖・歩行器・装具・車椅子などが一致している
- ☐ 転倒・疼痛・呼吸循環・嚥下など、退院後に重要なリスクを具体化している
- ☐ 残存課題と、継続してほしい支援・再評価事項が分かる
- ☐ 本人・家族への指導内容と、どこまで実施できるかを確認している
- ☐ 退院後サービス・連携先・フォロー予定を最新化している
- ☐ 宛先に合わせて、必要な情報を強調し、不要な専門用語を減らしている
- ☐ 作成日・最終更新日を確認している

※例文は一般的な書き方の例です。患者ごとの状態、医師・看護師等の指示、所属施設の基準、地域連携様式に合わせて調整してください。